

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する公聴会

平成 25 年 2 月 25 日（月）15:40～15:55

さいたま新都心合同庁舎検査棟 7F

発言者：公述人 20

20 番が 19 番になったそうですが、■■■■といます。八ッ場ダムやめろっていう裁判の東京の原告です。大勢の方がここへ出ておっしゃっているのは、国土交通省が何も回答しない今日は聴きだけだ。それで、それじゃ実際面白くないわけですね。私なりに考えますと少しでも面白くしようと、でも答えてくれないんだからどうしよう、この人たちは、今ここにいる人たちは、国土交通省で定年になった時、どこへ天下るのか、その顔つきとか体格といたら失礼ですけど、それからいろいろ想像しますと、答えてくれないんで、こっちで勝手に想像します。それで、この人は■■行くな、この人は■■がいいかな、いろいろ考えました。そのくらいせつかくここまで来るんですから、私たちにも何か楽しみがないと面白くない。真ん中にお座りの方はそういう企業よりも高崎市長とか群馬県知事とかそんな方が行政としてダムを推進しているわけですね。そっちの方が適当かなとか、それから失礼ですけど、その後ろ二列目にいらっしゃる方は、もう少し貫禄を付けていただかないと、私としてもちょっと想像がつかない。まさかダンプの運転手さんになるんじゃないと思うんで。回答が全然ないんで、そんなことをさっきから考えております。我が国の、この国のダムを造っていく仕組みっていうか、こういう理由で造るんだっていう話はあるんですが、もうそれはだいたい行政などによっても例えば洪水を防止するとかそういうことが、だいたいカバーされていてほとんど必要ないんですね。それを古い話になりますが長野の知事の田中康夫さんなんて人が見抜いてダムをいくつか中止した。そしたら次の選挙でもう見事に落選した。そのくらいダムを造る側はすごい力というか裏の動きこれはおそろしいほど私たちも感じなくてはなりません。それで八ッ場ダムの場合だったら、群馬県のダムの選挙区から出ている議員にも推進の力添えをしてもらえるよう、大量の、毎年大量の寄附がいつています。そうすると、この寄附の値段というのは、ダムを造る本体の工事費に寄附の値段がもうこんなに毎年続いているんならば、加算されているんじゃないか、そういうことを国土交通省は考えたことがあるんでしょう。自分も将来、天下りして、それがもらえるとでも思っているんでしょう。そういうことも私たちは考えます。それから八斗島の水量についてももう堤防が十分だという話とをもって洪水に対策を立てなければいけないので、八ッ場ダムを造るって話と今この2つがまだ結論が出ていないような状況で造るほうが国土交通省ですからその主張の方が大きく聞こえて、私たちとしてはちょっと不安なんですけど、先日、特ダネがありまして、この洪水の時の水量がもっと水量が高くなる、つまり洪水になりやすいようにデータ、数字が変えられたとそれが国土交通省の資料として入ったと、そうするとこれは泥棒が入って資料を取り替えたんでしょうか。その辺は警察に盗難届がでているんでしょうか。これも回答がないんですが、国民の財産を管理しているお役所なんですから、その辺はハッキリして、今度こういう席じゃないところで私たちが質問したときには、それまでにぜひ調べておいていただきたい。一番理想的なのは、また、もう1回泥棒が入ってその改ざんされた資料じゃなくて、前のそんなに水が出ないんだっていう資料と取り替えるのが一番いいんじゃないかと思いますが、その辺はご相談のうえ、よろしく願いいたします。実は昨日もどんな様子かと思ってちょっと時間があつたので傍聴に来ました。昨日は風が、私ああいう風は初めてあいましたけど、この会場に向かって3階の通路を来ると、歩こうと思って片足を上げ

ると体全体が風下に吹き飛ばされるそういう状況でした。それでこの会場に来てからもう少し駅に近い会場はないのかというような質問を受付でしたんですが、私は考えるとダムのそれからこういう通路の造り方も造っちゃえばいいと、それは国土交通省じゃないかも知れませんが、お役所は造っちゃえばいいということで、昨日もその高いビルの間を通るときにそういうふうにあったし、この入口に来ても担当の方が会場ですっていうのを持っているだけで、そばへ行って、顔をのぞき込んでも死んでいるように挨拶もないんですね。普通ならばその風の中、大変でしたね、大丈夫ですかっていうような挨拶が、普通の人間ならあるはずですが、だから私はそういう考えでダムを計画し、ダムを造っているからいつまでたっても私たちからみれば、ほんとうに必要な物が出るんじゃないかと、一部にそうでない我々と考え方の似ている方がいるというお話もありますけども、そういう方にぜひ、がんばっていただきたいと思います。ちなみにきょうは会場の看板を持っている人が昨日よりも3人増えて、3人がその角の曲がる所じゃなくて100mぐらい駅に近いとこにいて挨拶をしてくれました。当たり前なことなんですけど、昨日のことを考えるとびっくりしました。そういうふうに昨日は私は少し大声で怒鳴りましたけれども、話し合いでいろいろダムについて治水対策について話し合いをしていくような、国民と市民と国土交通省とかお役人の場がこれからはぜひ、必要だと思います。その辺はせっかく2日間ですか、そこに座ってこういうくだらない話をきいているんですからご苦労様だと思いますけれども、その点はぜひこれからも検討していただきたいと思います。あとは質問をしたらば直ぐにご返事が返ってくるような場でやりたいと思いますので、きょうはこの辺で終わらせていただきます。

以上